

本日、ここに平成30年市議会6月会議が開会されるにあたり、最近の市政の状況と提案いたしました諸議案につきまして、その大要をご説明申し上げます。

はじめに、ただいま、全国市議会議長会表彰並びに北信越市議会議長会表彰を受賞されました、宮岸議員、岡本議員には心よりお祝いを申し上げますとともに、これまでの議員活動に対し敬意を表する次第であります。今後とも、ご健勝にて、さらなるご活躍をされますようご期待申し上げます。

さて、この冬は、37年ぶり的大雪となりました。市民生活に大きな影響がありました。初夏を迎えた白山平野には、早苗が風にたなびき、いつもと変わらない風景があります。そうした中、先月19日、20日の両日、美川では、県無形民俗文化財「おかえり祭り」が荘厳な中行われ、美川校下青年団の威勢のよいかけ声とラッパの力強い音色が響き渡りました。紋付き袴姿のいでたちの若衆に担がれた華やかな神輿や13基の台車が町内を練り歩き、地域の皆様が一丸となって熱く盛り上がり、祭り一色に染まったところでもあります。このすばらしい伝統行事が、代々引き継がれ、多くの方々に感動を与え続けることを願っております。

そして、今月からは市内各所で恒例の行事やイベントが開催されます。まず、15日には、白山白川郷ホワイトロードが全線開通し、残雪が輝く白山の山並みを楽しむことができます。また、16日には、松任駅南広場で市内生産者等の特産品や朝どれ新鮮な初夏の幸が一堂に集まり、直接見て、買って、味わうことができる「マルシェ・ドウ・ハクサン」が行われ、24日には、「雪おくりまつり」が三方岩岳駐車場で開催されます。今年も年間を通じて、海から山まで特色のある本市の魅力発信に努め、地域の活力と市勢の伸展に生かしてまいりたいと思っております。

それでは、最近の市政の状況についてご説明申し上げます。

はじめに、道の駅「めぐみ白山」についてであります。

国、県のご支援をいただきながら、地元経済団体、農協等の皆様と一緒に取り組んでまいりました道の駅「めぐみ白山」が、4月27日にグランドオープンいたしました。オープンから今月2日までに10万人を超える大勢の皆様にお越しただいております。地元生産者の安全・安心・採れたての野菜や果物、発酵食品、加工食品など魅力のある地場産品が並ぶ売場や地元食材を生かした多彩で豊かなメニューをゆったりと楽しめるレストランは、連日、賑わいを見せております。さらに、今後は、地元生産者が丹精込めたトマト、なす、えんどう、ブロッコリーなどの夏野菜に加え、メロン、梨などの果物もお買い求めいただけるようになります。お越しいただきました皆様に喜んでいただけるよう地元産の安全を添えた「季節の旬」をお届けしてまいりたいと思っております。また、道の駅を利用されます皆様は触れ合い、楽しめる機会として、多彩なイベントもご用意いたしております。今月10日に文化交流イベントとして「和太鼓演奏」を、17日に姉妹都市交流イベントとして「香り豊かな藤枝新茶PRイベント」を、24日にはスポーツ交流イベントとして、1月に県内から初めて日本フットサル2部リーグに参入いたしました本市をホームタウンとする「フットサルチーム『ヴィンセドール白山』ファンイベント」を実施することとしております。今後も数多くのイベントを計画しておりますが、地域の活性化に貢献する新たな「交流拠点」として、充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、白山総合車両所等を活用した観光・産業振興ビジョンについてであります。

白山総合車両所等を活用した観光・産業振興策をはじめ、都市基盤の一層の整備充実に向け、4月より、国土交通省から副市長を迎え、体制の強化を図ったところであります。また、昨年末の自由民主党の「新幹線車両所の活用による観光・産業振興プロジェクトチーム」の中間とりまとめを受け、今年度、地方創生推進交付金の交付決定をいただいている地域振興策の核となる「ビジターセンター」の整備基本計画、基本設計や観光活用策等について、全庁体制で協議、調整を進めるため、澤山副市長をチームリーダーとする「車両所等を活用した観光・産業振興チーム」を4月1日に立ち上げたところであります。引き続き、自由民

主党プロジェクトチーム及び関係機関と調整を進めていく中で、本市、能美市、野々市市、川北町の3市1町で3月に策定いたしました「新幹線車両所の活用による観光・産業振興ビジョン」をより具体的に進化させるとともに、地域の活性化につながる環境整備に向け、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

次に、最近の我が国の経済情勢と本市の企業活動についてであります。

先月、内閣府が発表いたしました1月から3月期の国内総生産GDPの速報値が前期比で0.2%減となり、9四半期ぶりにマイナス成長となりましたが、政府は、景気の回復基調は変わらず、一時的な減速との見方を示しております。また、北陸の景気につきましても、先月発表されました日本銀行金沢支店の金融経済月報は、好調を維持するとともに、個人消費は着実に持ち直しているとしています。

そうした中、本市の立地企業についてであります。山島工業団地においては、株式会社フェローテックセラミックス、サンディーネットワーク、株式会社ヤスジマが操業を開始し、株式会社ビー・ケー・ティが10月の竣工に向け工事を進めているところであり、また、第2期分譲地におきましても、トラックボディー製造の株式会社トランテックスが秋頃にも新工場の建設に着手を予定いたしており、引き渡しに向けた造成工事に取りかかったところでもあります。さらには、先般、松本工業団地に立地しております大阪有機化学工業株式会社が半導体製造用薬剤の新生産棟の整備を、旭工業団地に立地しておりますホクショー株式会社がレーザー加工機や自動塗装ラインなどを集約し新工場の建設を、それぞれ発表いたしましたところでもあり、引き続き活発な企業活動が展開されております。なお、事業所の増設や新たな市民の雇用を行いました株式会社金沢村田製作所外5社に、また、本社機能の事業拠点を本市に移転されました足田産業株式会社に対し、工場立地の促進に関する条例の規定に基づき、先月9日に企業立地助成金を交付させていただいたところでもあります。

このような中、本市の平成29年度決算につきましては、5月末をもって、出納を閉鎖し、現在、計数を整理中であります。一般会計の歳入であります。特に市税については、個人所得の伸びや企業活動が旺盛であったことから、昨年度を

上回り過去最高額となる197億円台を確保できる見込みとなりました。歳出では、この冬の記録的な大雪により、除排雪の経費が大きく膨らみましたが、国の除雪費に対する臨時特例措置及び特別交付税での支援もあり、また、経費の節減にも努めた結果、実質収支は、昨年度を若干下回るものの、約10億円を確保できる見込みとなりました。平成31年度までは、地方交付税の合併特例が段階的に縮減されますが、引き続き、効率的な財政運営に努め、持続可能な行財政基盤の確立に努めてまいります。

次に、第2次白山市総合計画とSDGsの推進についてであります。

第2次総合計画がスタートして2年目となります今年度におきましては、基本理念の「健康」、「笑顔」、「元気」の3つの柱に沿って、各種事業をさらに一歩進め、着実に実施をし、市民の皆様とともに、住み良いまちづくりに向け、これまで以上に使命感を持って、誠心誠意、取り組んでまいります。また、総合計画に掲げる各施策は、国連の持続可能な17の開発目標SDGsの理念と重なるものであり、各施策の取組みを実践していくことが、SDGsの達成につながるものと考えております。なお、SDGs達成に向けた取組みを一層推進するため、白山ユネスコエコパーク及び白山手取川ジオパークの理念に基づき、環境に調和した経済発展や豊かな生活の確立を目指す本市の取組みについて、内閣府の「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」に提案書を提出いたしております。また、外務省のSDGsに関するホームページにおいて、全国の自治体で初めて本市の取組みが紹介されております。こうしたSDGsの取組みを様々な媒体を活用することにより、広く普及啓発に努め、本市の魅力発信につなげてまいりたいと考えております。

次に、今年度の「まちづくり会議」についてであります。

これまでに21地区で、地区の皆様を対象に開催いたしており、今月末までには全地区での開催を終える予定といたしております。会議は2部構成となっており、第1部では、「子育てがしやすい環境づくり」や「市民の健康づくり」、「市民協働のまちづくり」のほか、「子ども見守り活動」、「教職員の働き方改革」など平

成30年度予算の主要事業について説明をさせていただいております。第2部では、住み慣れた地域を元気にするための課題として、「児童館・児童クラブの整備」や「高齢者の交通対策」、「除雪への対応」、「若い世代との交流」、「地域の賑わい創出」などについて、地域の皆様方からのご意見やご提言を拝聴させていただいたところでもあります。こうした貴重な声を今後の施策に出来る限り生かしながら、引き続き、「対話と参加」の市政運営に努めてまいり所存であります。

次に、クマの出没についてであります。

先月9日の早朝、鶴来地域の大竹町地内にクマが出没いたしました。第一報が白山警察署にあり、その後市に連絡を受け、職員が現場に急行いたしました。朝の通学の時間帯とも重なったことから、子どもたちの安全のため、直ちに町内会や学校、保育所等の関係機関へ連絡をとるなどの対応をいたしたところでもあります。白山警察署や館畑地区消防団のほか、県、猟友会など関係機関の懸命な捜索とご協力により、けが人も無く、無事捕獲することができました。この時期、冬眠明けのクマは餌を探すために活動範囲が広がり、住宅街にも出没する可能性があります。万一、クマを目撃した場合は、まずは、市役所、警察署へ通報いただき、その上で、しっかりと戸締りをし、むやみに外出しないようお願いするものであります。今後とも、白山警察署や消防団、猟友会など関係機関との連携を密にし、的確な対応と注意を呼び掛けてまいりたいと考えております。

次に、コミュニティバス「めぐーる」についてであります。

本年4月より、満75歳以上の方と障害者手帳等をお持ちの方、その付き添いの方の運賃を無料といたしました。これまでに、1,200名を超える75歳以上の方から申込みがあり、無料乗車券と専用ストラップ付カードケースを交付いたしました。乗車人数を昨年4月と比較いたしますと、約5%増の12,113人のご利用をいただいたところです。引き続き、多くの皆様にご利用いただけるよう、改善などに努めてまいります。

次に、子どもの安全・安心についてであります。

先般、新潟市で小学校２年生の児童が下校途中に殺害されるという大変痛ましい事件が発生いたしました。お亡くなりになられた児童の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご家族の方々に心からお悔やみを申し上げます。このような事件が二度と起こらないことを祈るばかりであります。

本市の登下校時の見守り活動につきましては、各地域のボランティア団体の皆様に行っていただいております、深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。この４月には、そうしたボランティア団体の皆様により「白山市子ども見守り連絡協議会」を新たに設立いただきました。小学生の登下校に関する情報を相互に共有し、連携することで、より一層の防犯体制の強化につながるものと心強く思う次第であります。また、見守り活動の際にご使用いただく統一した帽子とベストが完成いたしましたので、先月３０日に、松任公民館でお披露目と配付式を行ったところであります。統一したユニフォームを着用していただくことにより、見守り活動をされる方自身の安全の確保と、市全体で子どもたちを見守っているという抑止効果が図られるとともに、子どもたちの安心感にもつながるものと考えております。

次に、健康づくりの推進についてであります。

今年度より、第２次白山市健康プランがスタートいたしました。新たな市民への健康づくり事業として取り組む「健康寿命伸ばすぞ大作戦」は、１日６，０００歩を目標に「歩くこと」の習慣化を図り、肥満の予防や体力の向上などにつなげるものであります。「歩くこと」は、誰もが取り組みやすく、続けられる健康づくりであり、楽しみながら参加していただくため、今月２２日と２７日に、白山高山植物園の散策と西山登山をメインとする「心と体の健康講座」を開催いたします。また、来月１１日の鶴来地域での開催を皮切りに、松任、美川、白山ろくの各地域において、市内のジオポイントや隠れたスポットを紹介しながら、ウォーキングインストラクターとともに歩く講座を順次実施してまいります。市民の皆様には、お気軽に参加をいただきますとともに、今後とも、そうした講座等を通じ、「歩くこと」を広く推奨してまいりたいと考えております。

また、健康で元気に暮らせる新しい都市モデルの構築を目指す「スマートウェルネスシティ首長研究会」に、県内自治体で初めて加入いたしました。研究会に加入する健康づくりに取り組む先進自治体におきましても、「歩くこと」を基本とし健康づくりが進められており、そうした先進自治体との情報交換や連携により、「はくさんタニタ健康倶楽部」の活動及び今年度取り組む「健康寿命伸ばすぞ大作戦」との相乗効果を図り、市民一人ひとりのさらなる健康づくりにつなげてまいります。

次に、白山開山1300年記念事業として次の100年に向けた取組みについてであります。

今年度は、昨年度の盛り上がりを一過性のものとしないうえ、恵み豊かな「白山」への関心がさらに高まるよう、取組みを継続してまいります。まず、7月1日から、自分だけが知っている白山市のとおき、「いいところ」を募集し、100年後に伝えたいもの、残したいものとして、本市のホームページで広く紹介する事業、

「100年後に伝えたい私のイチオシ『いいところ たくさん つなげよう』」を開始いたします。白山市の良い所を多くの皆さんに発掘していただき、広く発信してまいりたいと考えております。また、今年度も7月7日から9月30日までの期間、一里野温泉スキー場において、3万個、七色のLEDライトによるイルミネーション事業を「次の100年へ最初の一歩」として実施いたします。現在、ライトの取り付け作業などにお手伝いいただけるボランティアを募集いたしているところであり、期間中、多くの皆様と共に、幻想的な灯りの芸術を共感したいと思っております。

次に、白山手取川ジオパークの推進についてであります。

ジオパークプロモーション活動といたしまして、先月12日に、県内初となるスポーツイベント「ジオフォトログイニング in 鶴来2018」を開催いたしました。当日は天候に恵まれ、鶴来地域の様々な風景や名所などを巡り、チェックポイントでは、指定されたポーズを写真に納め、フォトログイニングを存分に楽しんでいただいたところでもあります。今後も、白山手取川ジオパークの魅力を広く発信するた

め、地域を変えて開催してまいりたいと考えております。

また、8月26日には、「桑島化石壁」で植物化石を採取し、日本の地質学研究に大きく貢献をいたしましたドイツのライン博士の没後100年を記念して、ライン博士研究の第一人者でありますボン大学のシェンク教授をお迎えし、講演会を開催することといたしております。これらの活動に加え、ジオガイドの養成やジオツアーの充実を図るなど、世界認定に向けてのプロモーション活動及び国際的なネットワーク構築の推進を図ってまいります。

次に、松任文化会館についてであります。

8月1日にリニューアルオープンいたします松任文化会館は、今月末に工事を終え、全面ガラス張りの明るい外観とホール機能の充実により、駅周辺のシンボリック施設として生まれ変わります。リニューアルオープンに先立ち、7月22日に「白山国際太鼓エクスタジア」を開催いたします。世界に向けて発信する「太鼓音楽」の創造に取り組まれる太鼓奏者の林英哲さんによります「一番太鼓」で幕開けを告げ、「第2回林英哲杯太鼓楽曲創作コンクール最優秀賞受賞者演奏」、「太鼓の響演『いのちの息吹』」、「林英哲コンサート」の3部構成とし、こけら落としにふさわしい公演になっております。市民の皆様には、ぜひ生まれ変わった松任文化会館にご来場をいただきますとともに、各種発表会等でのご活用をお願いするものであります。

次に、防災訓練についてであります。

「手取川・梯川総合水防演習」が、先月26日、川北町手取川河川敷を主会場に、石川県では10年ぶりに開催されました。今回は、昭和9年の大水害の記憶を繋ぐため、「手取川において最大規模の降雨による流量・流速が増加し、堤防浸食が発生した」との想定で行われました。本市からも、消防団員136名が水防工法に取り組むなど、水防における技術力の向上に、つながったのではないかと考えております。

また、夏山開き前の今月28日に、昨年に引き続き2回目となります「白山火山



防災訓練」が実施されます。石川県と本市の合同で、入山規制訓練を行うほか、緊急速報メールによる登山者への情報伝達訓練を行います。この緊急速報メールにつきましては、白山市全域のほか、近隣自治体の隣接地域にも一部配信されますので、誤解や混乱を招くことがないよう、県と共々、事前に十分な周知を図ってまいります。なお、昨年7月より白山の「登山届」の提出が義務化されたところであり、県では、近年増加している白山の外国人登山者に対応するため、「登山届」の英語様式のほか、今年度、新たに中国語と韓国語の様式が加えられたところがあります。

次に、ドローン等を活用した活動支援に関する協定についてであります。

本市と林野庁近畿中国森林管理局石川森林管理署との間で、先月30日に、林野災害時等における無人飛行機ドローン等を活用した活動支援の運用に関する協定を締結いたしました。この協定は、本市の民有林において、地震、大雨、台風等による災害が発生した場合に、ドローン等を活用して、災害状況の情報収集や被災範囲の把握を行い、応急対策についての助言を受けるほか、被災地域における緊急連絡体制の支援に関する内容となっており、大変心強く思っております。災害時には、各関係機関との連携及び協力のもと対応することが重要であることから、本市といたしましても、来年度のドローン導入に向けて研究してまいりたいと考えております。

それでは、提案いたしました諸議案について、ご説明申し上げます。

提出案件は、補正予算案5件、条例案3件、事件処分案4件、報告案件12件の計24件であります。

はじめに、議案第50号から第54号までの平成30年度補正予算案についてであります。

まず、一般会計につきましては、補正予算額6億5,800万円余となるものであります。主なものとして、総務費では、姉妹都市提携30周年を祝うコロンビア市公式訪問団受入事業費などを、民生費においては、公立放課後児童ク

ラブ施設整備事業費などを計上し、農林水産業費では、経営体育成支援事業費などを計上いたしております。さらに、商工費では、商店街賑わい創出事業補助金などを計上し、土木費では、社会資本整備総合交付金の採択に係る道路整備事業費及び土地区画整理事業費などのほか、旧加賀一ノ宮駅舎改修に伴う周辺整備に係る鶴来地区都市再生整備事業費を計上し、また、消防費では、落雷により破損した防災行政無線の屋外拡声子局修繕に伴う経費などを計上するものであります。教育費では、昨年6月にお亡くなりになられた千代野西三丁目の故敷浪悦子さんより、地域の子どもたちの教育福祉に役立ててほしいと多額の金員が遺贈されたことから、故人のご遺志を尊重し、新たな基金に積み立て、有効な活用を行います。また、外部人材による部活動指導員のモデル配置に係る教職員働き方改革事業費などを計上するほか、学校施設環境改善交付金の内示があり、笠間中学校第一体育館の大規模改造事業費を計上いたすものであります。

次に、特別会計及び事業会計につきましては、介護保険特別会計においては、国庫補助金の内示がありました地域介護・福祉空間整備補助金を計上し、簡易水道事業特別会計では、一里野水道施設整備事業費を計上するものであります。さらに、工業団地造成事業特別会計では、山島工業団地の土地売却に伴い起債の繰上償還を行うための所要の経費を計上するものであり、下水道事業会計では、社会資本整備総合交付金の採択に係るマンホールポンプ設備改良事業費などを計上するものであります。

次に、議案第55号から第57号までの条例案につきまして、その主なものをご説明申し上げます。

「白山市教育福祉基金条例」につきましては、故敷浪悦子さんの遺志を生かすため、基金条例をお願いするものであります。「白山市税条例等の一部を改正する条例」につきましては、地方税法等の一部改正に伴い、法人市民税の電子申告の義務化、生産性向上特別措置法の規定による計画に基づき行われた中小企業の設備投資に係る固定資産税の免除並びに市たばこ税の税率の見直しについて、関係規定を改正するものであります。

次に、議案第58号から第61号までの事件処分案につきまして、ご説明申し上げます。

市道路線の認定につきましては、道路法の規定に基づき、都市計画道路整備に伴う路線について、「北陸本線宮野前踏切の改良工事委託に関する協定」につきましては、市道米永松本線と交差する踏切の改良工事を委託する協定を締結するため、また、「財産の取得」につきましては、公共交通の用に供するコミュニティバス2台を購入するため、それぞれ議会の議決を求めるものであります。

次に、報告第2号から第13号までの報告案件について、その主なものをご説明申し上げます。

補正予算の専決処分の報告につきましては、平成29年度の一般会計補正予算におきまして、国、県支出金や市債等の額の確定、各特別会計への繰出金の調整のほか、事業の完了に伴う決算見込みをもとに6億5,000万円余の減額補正を行ったものであり、その結果、平成29年度一般会計予算の総額は520億2,000万円余となったところであります。

また、国民健康保険、介護保険、簡易水道事業などの特別会計では、事業費の確定に伴う減額補正、基金積立金の増額及び財源更正等を行ったものであります。

また、平成29年度の一般会計及び水道事業並びに下水道事業会計における繰越明許費繰越計算書を議会に報告するものであります。

また、平成29年度の白山市土地開発公社経営状況を地方自治法の定めにより、議会に報告するものであります。

以上をもちまして、6月会議に提出いたしました議案の説明を終わりますが、何卒慎重にご審議の上、適切なるご決議を賜りますようお願いいたします。